

# 日本音楽集団

## PRO MUSICA NIPPONIA

第163回定期演奏会  
The 163rd Regular Concert

2001年コンサートシリーズ  
未来への波

### 時空を超えてⅡ

Beyond Space-time Ⅱ

2001年5月16日(水)午後7時開演 津田ホール  
■主催：特定非営利活動法人日本音楽集団  
■助成：文化庁・日本芸術文化振興会  
舞台芸術振興事業



企画 吉村七重

## 郢曲「鬢多々良」、初外遊！

---

先日、伊福部昭先生に何年振りかの電話を試みる。郢曲「鬢多々良」が初めて日本を出て「プラハの春」音楽祭とパリで演奏することになった報告と、出発に先立ち、出来れば今日の演奏を聴いて頂きたいという思いからでした。電話口にはご子息が出られて「父は今、旅に出ています」～（田村）「どちら方面に？」～（ご子息）「どこに出かけたのか分からないんです…」～（田村）「奥様とご一緒に？」～（ご子息）「母は昨年亡くなりました」～（田村）「…それはどうも。いつお帰りですか？」～（ご子息）「それが…19日に出ていますから、もう帰る頃とは思っているのですが…」～。奥様がお亡くなりになっていたとはつゆ知らず、とんだ失礼をしてしまった。1998年秋の演奏の折には奥様とご一緒に津田ホールにお見えになり、先生にはステージにも上がって頂いた。それにしても先生は今頃どこを散策しておられるのか…87才になられる身の一人旅にご無事を！

今回の企画も1月の定期に引続き吉村七重が担当。西村朗作品「時の陽炎」は三橋貴風の尺八ソロに箏群と打楽器が響演。レコードマニア落語家柳家小三治氏と日本音楽集団との出会いのキッカケを作った組曲「人形風土記」。宮田耕朗・宮越圭子のコンビによる「萌春」の演奏は、現在考えられる最高のメンバリング。本日発売のCDとも併せ、どうぞ長沢節をお楽しみください。

日本音楽集団代表 田村拓男

## ご挨拶

---

本日はお忙しい中ようこそお出かけ下さいました。

〈未来への波〉と名づけたシリーズの二回目は、過去の定番名作品三作〈組曲「人形風土記」〉〈萌春〉（長沢勝俊作曲）、〈郢曲「鬢多々良」〉（伊福部昭作曲）、邦楽合奏の一つの新形態を提示する作品、〈時の陽炎〉（西村朗作曲）をお聴き頂きたいと思います。

先日、4月17日の毎日新聞「批評と表現」の記事の中で西村朗氏が述べて下さったように、「古典の継承と可能性の探求」は「日本音楽集団」にとっても我々一人一人の演奏家にとっても等しく重要な問題です。自らのレパートリーは自らで創り出さねばならない我々にとって、古典とは一つは自らが創り出した過去のスタンダード作品であり、もう一つは我々が内包するそれぞれの楽器の古典音楽です。

このシリーズの中で、伝統を今日に反映させたそれらの作品をお聴きいただき、皆様から様々な御意見をいただいて、大きな〈未来への波〉へ「日本音楽集団」を乗せていただきたいと存じております。

どうぞ、一層のご支援をお願いいたします。

吉村七重

## 一、組曲「人形風土記」(1966年)長沢勝俊作曲

NAGASAWA Katsutoshi : Doll Topography Suite

&lt;ニポポ&gt;&lt;こけし&gt;&lt;のろま人形&gt;&lt;流しびな&gt;&lt;キジ馬&gt;&lt;木うそ&gt;

[笛] 西川浩平 [尺八] 竹井誠・添川浩史

[三味線] 工藤哲子 [琵琶] 荒井靖貴

[箏] I 桜井智永・久東寿子 II 城ヶ崎美保・早川智子

[十七絃] 大島菜穂子・丸岡映美

[打楽器] 望月太喜之丞・若月宣宏

長沢勝俊(1923～)を「民族主義の作曲家」と呼ぶことは間違いではないだろう。ただし彼は、日本の独自性や優位をことさら強調するわけではない。むしろ、ごくありふれた生活の中に、民族が培ってきた豊かな文化を見いだすことこそが、長沢流の民族主義なのである。この姿勢は、邦楽器に対しても同様で、「こんなに面白い楽器があったのか」という、理屈抜き素朴な喜びが、彼の初期アンサンブル曲の根幹を成しているように、筆者には感じられる。

1966年に書かれた「人形風土記」は、作曲者のこうした資質が、とりわけよくあらわれた作品。小さな人形に寄せる視線の優しさや、名もない人々への共感が、音楽の随所から浸みだした傑作である。

全体は6曲からなる。ひなびた哀愁を湛えた「ニポポ」(アイヌ)から、篠笛と尺八が山々にこだまする「こけし」(東北)、太棹や太鼓が活躍する痛快な「のろま人形」(佐渡)、荒涼とした日本海を思わせる「流しびな」(鳥取)、尺八2本と桶胴が奇妙な立体感を産み出す「キジ馬」(大分)、そして全合奏による盛大なフィナーレ「木うそ」(福岡)まで、その楽しさは筆舌に尽くしがたい。

【CD：長沢勝俊作品集Ⅰ人形風土記(CRD-1077)】

## 二、萌春(1971年)長沢勝俊作曲

NAGASAWA Katsutoshi : Hoshun for Shakuhachi and Koto

[尺八] 宮田耕八朗

[箏] 宮越圭子

長沢作品に共通した特徴といえば、どの楽器も実に心地よく鳴ることではないだろうか。この《萌春》の場合も、楽譜を見る限りでは、ごく単純で、むしろ平凡な印象さえ受けるのだが、ひとたび音になって響きだすと、尺八と箏の深々とした音色が耳をとらえて離さない。1971年の初演以来、邦楽器による二重奏の定番作品として、数多くの再演を重ねてきたというのも肯ける話である。

ちなみにギターとフルートによる演奏もディスク化されているが、こちらを聴くと、原曲の洒脱な側面が強調されていておもしろい。

【CD：二つの舞曲(ナミレコードWWCC-7389)、本日と同じ演奏者で新発売】

### 三、時の陽炎<ときのかげろう>~尺八、箏群と打楽器のための~ (1997年) 西村朗作曲

NISHIMURA Akira : Toki-no-Kagerou~For Shakuhachi, Koto ensemble and percussion~

[尺八独奏] 三橋貴風

[二十絃箏] I 吉村七重・早川智子・桐岡知代 II 桜井智永・岸川光代・久本桂子  
III 山田明美・城ヶ崎美保・山田由紀

[十七絃] 宮越圭子・大島菜穂子・徳野礼子

[打楽器] 白杵美智代・若月宣宏

西村朗(1953~)は、東アジアの伝統音楽や美学から影響を受けた、エネルギッシュな作風で知られる作曲家。身体に直接働きかけてくるようなその音楽は、現在の創作界に貴重な位置を占めている。

1997年に作曲された《時の陽炎》は、西村としては珍しく、全面的に不確定な記譜法を採用した作品。例えば、打楽器のいくつかの部分を除いては、正確な音高指定はなされていないし、後半のクライマックスにおける箏は「爆発的かつ錯乱的な激しい即興」が要求されるといった具合である。

しかし、もちろん作曲者は演奏家に全てをゆだねているわけではない。グラフィックな記譜は、単に各楽器が固有の時間を持って揺らぐ状態を示す手段なのである。ゆえにミクロのレベルでは奏者一人一人が自発的な選択を行いながらも、マクロの視点からみると、西村作品に特有の、全体がざわめきながら頂点へと向かう熱狂的な持続が姿をあらわすことになる。

[CD : 三橋プレイズ西村朗 (仮題)、今年12月21日カメラータトウキョウより発売予定]

### 四、郢曲「鬢多々良」(1973年) 伊福部昭作曲

IFUKUBE Akira : Bintatara per 16 strumenti di Giappone~

[笛] I 竹井誠 II 西川浩平 [竜笛] 中村香奈子(助演)

[能管] 添川浩史 [箏] 西原祐二 [笙] 真鍋尚之

[筑前琵琶] 田原順子 [薩摩琵琶] 荒井靖貴

[箏] I 吉村七重 II 山田明美 III 桜井智永 [十七絃] 宮越圭子

[小鼓] 尾崎太一・望月太喜之丞 [大鼓] 白杵美智代 [楽太鼓] 田村拓男

1973年に作曲された《鬢多々良》は、伊福部昭(1914~)の作品群の中でも、ひときわ魅力的な音楽の一つである。以下、その理由を3つほど挙げてみたい。

まず第1に、邦楽器の響きが、彼の音楽と本質的にマッチしていること。伊福部作品では、《交響譚詩》や《日本狂詩曲》といった管弦楽曲においてさえ、随所で「笛」や「太鼓」を思わせる音が聞こえてくる。つまり、西洋のオーケストラに対している時でも、作曲者の頭の中では、シルクロードをはるか東に進んだアジアの音色が鳴っているのである。

そして第2に、この作品が自由な舞をイメージして書かれた、一種の「舞踊音楽」であること。舞踊音楽は伊福部の最も得意とするところであり、貝谷八百子バレエ団のために書いた《サロメ》、そして石井漠のために書いた《人間釈迦》などは、いずれも数百回以上という演奏回数を誇る、彼の隠れたヒット作となっている。

そして第3の理由は、「郢曲」(平安中期の歌謡)というタイトルが示すように、この作品では、大陸の要素と日本の土着文化が混合した、遙かな中世に題材が求められていること。きわめて日本的でありながら、同時に雄大なスケール感においては「日本人離れ」している伊福部の音楽に、これほどびたりとくるテーマもないだろう。

曲は大きく3部分に分かれている。第1部は、箏の独奏から徐々に全合奏へと至るダイナミックな部分。強烈なアクセントを伴ったオスティナート音型は、まさに伊福部節の真骨頂である。第2部は、琵琶の独奏が導く、夢のような部分。停滞した時間の中で、様々な楽器のカデンツがたゆたう。そして最後の第3部は、再び冒頭部が回帰して、圧倒的なクライマックスへと続く。

【CD：鬘多々良/伊福部昭作品集(カメラータトウキョウ28CM290)】

#### 曲目解説—沼野雄司(ぬまの ゆうじ)

1965年東京生まれ。東京芸術大学大学院博士後期課程修了。博士(音楽学)。現在、東京音楽大学専任講師。不確定性音楽や1970年前後の前衛音楽に関する論文、学会発表に加えて、NHK-FMへの出演、東京オペラシティ「コンポージアム」の企画協力、読売新聞夕刊の音楽批評など、多岐にわたって活動。訳書に『世界音楽の時代』(音楽之友社、共訳)、著書に『オーケストラを読む本』(ヤマハ、共著)など。

## 作曲家プロフィール

#### 長沢勝俊(ながさわ かつとし)

1923年東京に生れる。清瀬保二に作曲を師事。64年の日本音楽集団創立に参加。49年以来人形劇団「ブーク」の音楽を監修。86年歌舞伎・市川猿之助「ヤマトタケル」などの音楽を作曲。90年紫綬褒章を受章。6回の日本音楽集団の海外公演に参加。日本大学芸術学部修了。日本音楽集団の名誉代表。「子供のための組曲」「組曲・人形風土記」「大津絵幻想」「萌春」「錦木によせて」他邦楽器のための作品多数。

#### 西村朗(にしむら あきら)

1953年大阪生れ。東京芸術大学、及び同大学院修了。西洋の現代作曲技法を学ぶ一方で、在学中よりアジアの伝統音楽、宗教、美学、宇宙観などに強い関心を抱き、そこから導いたヘテロフォニーなどのコンセプトにより、今日までに多数の作品を発表している。日本音楽コンクール作曲部門第一位、エリザベート国際コンクール作曲部門大賞、ルイジ・ダルラピッコラ作曲賞、尾高賞、中島健蔵賞、京都音楽賞「実践部門賞」、日本現代芸術振興賞などを受賞。

#### 伊福部昭(いふくべ あきら)

1914年北海道生れ。北海道帝国大学林学科卒業。独学で作曲を学ぶ。1935年「日本狂詩曲」でチェレピン賞を受賞。38年「ピアノ組曲」がヴェネチア国際現代音楽祭に入選。80年紫綬褒章を受章。室内楽曲、歌曲から映画音楽、バレエ曲などを含む管弦楽曲と、その作品は多い。

## 日本音楽集団 最近の活動と今後のおもな予定

2000年

- 12月8日(金) 宝仙小学校音楽鑑賞会  
12月21日(木) 清泉女学院中学高等学校音楽鑑賞会

2001年

- 1月20日(土) 葛飾区立西小菅小学校音楽鑑賞会  
1月26日(金) 第162回定期演奏会  
～時空を超えてⅠ～ 津田ホール  
2月15日(木) 東京都小学校音楽教育研究大会に出演 中野ゼロホール  
3月1日(木) 日本音楽集団演奏会(郢曲「鬢多々良」、夷曲「西綾楽」他)  
新潟市音楽文化会館  
3月10日(土) 日本音楽集団熊本公演 熊本市民会館大ホール  
3月14日(水) NHKFM「邦楽百番」テーマ曲録音  
3月15日(木) 桐光学園高校音楽鑑賞会  
5月1日(火) 葛飾区立高砂小学校音楽鑑賞会  
5月9日(水) コマツ80周年記念レセプション 有明ビックサイト  
5月16日(水) 第163回定期演奏会  
～時空を超えてⅡ～ 津田ホール

5月22日(火) ～6月3日(日)

第25次海外公演(モンペリエ・プラハ・パリ・ラバト公演)

- 5月25日(金) ホテルグランパシフィックメリディアン  
5月31日(木) 山形県河北中学校音楽鑑賞会  
6月5日(火) ～21日(木)  
島根県巡回学校公演  
7月9日(月) 大田子ども劇場公演 大田区民プラザ  
8月6日(月) グローバル・ピース・ジャパン・コンサート2001  
～チェルノブイリの子どもたち すみだトリフォニーホール  
8月29日(水) ～31日(金)  
佐久地区巡回学校公演  
9月19日(水) 第164回定期演奏会  
～海外からの作品特集そのⅤ 前世紀の恨を超えて～ 津田ホール  
9月29日(土) 山寺・風雅の里コンサート  
10月9日(火) 釜石市中学校音楽鑑賞会 釜石市文化会館  
10月17日(水) 熊本県本渡市天草高校音楽鑑賞会  
11月1日(木) 「竹取物語」昭和女子大学人見記念講堂  
11月2日(金) 福岡公演 アクロスシンフォニーホール  
11月8日(木) 四日市市学校音楽鑑賞会  
11月22日(木) 第165回定期演奏会  
～コンポーザーズ・プロジェクト・シリーズⅣ 一柳慧氏からのメッセージ～  
津田ホール

【正会員】(団員)

笛  
西川 浩平  
越智 成人

笙  
野田 説子  
真鍋 尚之

箏  
稲葉 明德  
西原 祐二

尺八  
宮田 耕八朗  
三橋 貴風  
藤崎 重康(笛)  
竹井 誠  
米澤 浩  
水川 寿也  
添川 浩史  
加藤 秀和  
砂川 憲和

胡弓  
畦地 啓司(作曲)  
多々良 香保里

三味線  
杵家 七三  
箕田 司郎  
田中 悠美子  
工藤 哲子  
山崎 千鶴子  
坂口 美香  
中山 さち子

琵琶  
田原 順子  
首藤 久美子  
荒井 靖貴  
落合 和美

箏  
吉村 七重  
宮越 圭子  
熊沢 栄利子  
大畠 菜穂子  
桜井 智永  
山田 明美  
城ヶ崎 美保  
島崎 春美  
久東 寿子  
佐藤 里美  
高橋 はるな  
岸川 光代  
早川 智子  
丸岡 映美  
前川 美保子  
田村 法子  
桐岡 知代  
黒澤 有美  
徳野 礼子  
久本 桂子  
山田 由紀  
渡辺 正子

打楽器  
尾崎 太一  
高橋 明邦(指揮)  
仙堂 新太郎  
望月 太喜之丞  
臼杵 美智代  
立枝 恵子  
杉浦 邦雄  
若月 宣宏

指揮  
田村 拓男  
稲田 康  
田村 文生

作曲  
長沢 勝俊  
秋岸 寛久  
佐藤 容子

楽器・舞台  
中島 隆

代表  
田村 拓男

副代表  
尾崎 太一

運営委員  
秋岸 寛久  
仙堂 新太郎  
添川 浩史  
西川 浩平  
箕田 司郎  
望月 太喜之丞  
米澤 浩  
(五十音順)

監事  
宮田 耕八朗  
今井 隆夫

事務局  
霜島 素子  
益井 紀恵

名誉代表  
長沢 勝俊

名誉団員  
山田 美喜子  
坂井 敏子  
白根 きぬ子

賛助会員(五十音順)

法人  
(株)全音楽譜出版社  
(株)宮本卯之助商店

個人  
中島 靖子

青戸 順子  
青柳 堯  
朝吹 英世  
安達 眞五  
新井 克輔  
飯塚 絹子  
飯吉 正山  
家永 和治  
伊藤 美恵子  
今村 厚子  
今村 文彦  
植木 眞代  
大関 富枝  
大瀧 進一郎

太田 颯衣  
川壁 正  
岸 彰則  
木津 のぶ  
工藤 秀也  
後藤 隆  
後藤 陽子  
桜田 正憲  
佐々木 浩二  
柴田 寛二  
杉田 和繁  
関 厚雄  
田原 たま  
堤 紀江  
手塚 愛子  
野原 清子  
藤澤 美恵  
古川 羽衣  
本田 実  
水野 正徳  
森山 俊雄  
山崎 時男  
渡辺 ハル

協力会員(五十音順)

団友  
青木 誠  
秋浜 悟史  
荒谷 俊治  
伊藤 惣一  
稲垣 隆史  
大窪 悦子  
川崎 絵都夫  
川崎 祥悦  
菊地 悌子  
楠 知子  
鞍掛 昭二  
鯉沼 廣行  
坂田 進一  
佐藤 敏直  
芝 祐靖  
清水 義矩  
杉浦 弘和  
砂崎 知子  
芹沢 英雄  
田嶋 恵美子  
高野 文子

田嶋 直士  
田中 利光  
鶴野 和子  
藤舎 呂悦  
藤舎 呂船  
仲俣 申喜男  
半田 淳子  
廣瀬 量平  
福田 輝久  
鳳声 晴由  
星 旭  
増田 陸美  
宮本 幸子  
望月 太八  
元橋 康男  
矢崎 明子  
柳家 小三治  
横山 勝也  
吉沢 昌江  
ディヴィッド・ローブ  
ディヴィッド・ヒューズ  
ヘンリー・バーネット  
ラニー・シェルダン

王 燕樵  
張 曉輝

地方支部

道東支部 谷藤 彌  
道東支部 竹馬 亘  
水戸支部 斎藤 幸山  
山梨支部 郷 晃  
長野支部 佐藤 幸宇山  
新潟支部 飯吉 正山  
愛知支部 山田 孝子  
愛媛支部 渡辺 治子  
福岡支部 安武 由香理  
熊本支部 古川 安春

---

---

賛助会員へのお誘い

1999年10月、特定非営利活動法人日本音楽集団が発足したのを契機に、  
賛助会員を募集しています。多くの方々からの支援を仰ぎ、  
息の長い活動を目指したく、ご協力お願い申し上げます。  
募集の詳細はチラシをご参照ください。

---

---

特定非営利活動法人  
**日本音楽集団**

〒151-0073 東京都渋谷区笹塚3-17-1 滝沢ビル302

TEL 03-3378-4741 FAX 03-3376-2033

ホームページ URL <http://www.promusica.or.jp/index.html>

E-Mail [office@promusica.or.jp](mailto:office@promusica.or.jp)

---

---

箏

二十絃箏

箏を愛するすべての人の繊細な感情を忠実に音に表現する  
ために、楽器の本質を追求した箏

日本音楽集団推薦

有限会社 **琴光堂**

東京都目黒区碑文谷2-19-15 TEL(3792)8481 FAX(3792)8437